

日韓文化交流基金オンライン講演会

Aspects of Korean Culture and Society 講演要旨(第3回及び第4回)

前号に続いて、4回シリーズの講演会の第3回と第4回の要旨を掲載します。

第3回

「時代を彩る韓国ドラマの変遷 —『冬のソナタ』から『愛の不時着』まで」

講師：高橋 尚子 さん(ライター・編集者)

はじめに

2020年、『愛の不時着』『梨泰院クラス』の大ヒットにより、再び注目を集めた韓ドラ*1。コンテンツ自体の魅力にハマる人が多かったことは周知のとおり。だが、日本における韓流ブームの流れと、韓国現地の流れは大きく違っている。今回は、現地での流行と変遷に焦点を当て、「今」を作った布石を追ってみた。

*1韓ドラ：韓国ドラマの略称。

1. 【1990年代】韓ドラ黎明期

ソウルオリンピック開催(1988年)を機にテレビメディアが活性化し、今の韓ドラの土台が作られた時代。例えば、幼なじみ男女のロマンスを描いた92年の『嫉妬』(トレンディドラマの走り。韓ドラ初の海外輸出作)、95年の『砂時計』(社会派ドラマの金字塔)、96年の『男女6人恋物語』(シチュエーションコメディ(シットコム)の先駆け、シットコム＝若手スターの登竜門に)、97年の『星に願いを』(元祖・韓流ブームの立役者)が代表的。『星に〜』の主演俳優アン・ジェウクの紹介の際に、中国メディアが“韓流(韓国の風を意味)”という言葉を使い、流行になった。

2. 【2000年代前半】第一次韓流ブーム到来

■日本での盛り上がり：

02年、FIFAワールドカップサッカー日韓共同開催、合作ドラマ『フレンズ』(MBC/TBS)が制作・放送。03年、NHKBSで『冬のソナタ』日本初放送(第一次韓流ブーム)。

■韓国での潮流：

02年、『ロマンス』(年下男子ブームの先駆け)、03年、『屋根部屋のネコ』(同棲ロマンスの成功)、『チェオクの剣』(フュージョン時代劇の幕開け)、05年『私の名前はキム・サムスン』(ヒロイン像の変化)。

儒教思想が社会の根底にあり、年上の女性との恋愛はご法度だった韓国社会が変化し始めた頃。『〜サムスン』の大ヒットにより、それまでの“耐え忍び系”ヒロインから、本音を語り自分らしく生きる自立型ヒロインへと移行。

3. 【2000年代後半】マンガ・ネット小説のドラマ化の加速、 アイドルなど新人起用の変化

06年、『宮〜Love in Palace』(マンガ原作、演技ドル*2、モデル出身俳優の起用)、08年、『イルジメ[一枝梅]』(時代劇の新ヒーロー像)、09年、『美男イケメン』です(アイドルブーム到来)。特に、イ・ジュンギ主演の『イルジメ』は、“主人公は歴史上の偉人”が定番だった時代劇において、名もなき庶民の英雄が主人公、しかも20代の俳優が主演を務め、時代劇の新基軸を作り、視聴者層を広げた。

*2演技ドル：演技するアイドル、即ち俳優兼アイドルのこと。

4. 【2010年代前半】ケーブルTV・制作会社の台頭、 ファンタジーの流行、ジャンルミックスドラマの時代へ

テーマや手法が多様化していく2010年代。その背景には、地上波より自由のきくケーブルTVの台頭がある。

例えば、10年の『シークレット・ガーデン』(ファンタジーロマンスの走り)、13年の『君の声が聞こえる』(ロマンス×サスペンス×法廷劇、ジャンルミックスドラマ時代へ)、12年の『応答せよ1997』(ケーブルTVの台頭)、14年の『ミセン〜未生〜』(ケーブルTVの台頭、職場ドラマの成功)など。これらのヒットが、今現在の韓ドラの流れを作っていく。

5. 【2010年代後半】事前制作への移行、 男女平等〜強い女性時代、ジャンル多様化が加速

制作会社の参入により事前制作が増加。その後、半事前制作が一般的に。また、ヒロイン像は社会的に自立し、男性にも物申す強い女性が主流に。ジャンルも、恋愛要素なしのサスペンスや職業ドラマへと幅が広がった。

16年の『シグナル』(本格サスペンスの成功)、『太陽の末裔 Love Under The Sun』(完全事前制作、男女平等ドラマの走り)、17年の『魔女の法廷』(ジャンルドラマの確立、強いヒロインの台頭)、19年『椿の花咲く頃』(ヒロイン像の変化)など。

6. 【2020年】ウェブドラマの跳躍、世界配信時代へ

『愛の不時着』『梨泰院クラス』のヒットは、Netflix配信だったことが大きな要因。この2本の成功により、世界ほぼ同時配信の流れが加速。一方で、kakaoTVオリジナルドラマの『都会の男女の恋愛法』(世界配信はNetflix)のように、ウェブドラマも増加。スマホ視聴を前提にしているため、各話の時間が10〜20分、話数も短い構成に。韓ドラ＝1話あたりの時間が長い、という定型が大きく変わっていく過渡期にある。

さいごに

時代時代でヒットした作品を追っていくと、世相が見え、韓国ドラマの進化の過程がよくわかる。主人公・ヒロイン像の変化、扱うテーマ・手法の変化、そういった流れを知ってドラマを観ると、より深い驚きや感動に出会えると思う。



PROFILE

高橋 尚子
(たかはし なおこ)

韓流をメインとした雑誌や書籍の編集・執筆に携わる傍ら、俳優へのインタビューや、写真集、公式ガイドブックなども手がける。TVやイベントでコメンテーターも務めている。